

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 ういういの会

事業名 ながくての“あるく”らしマップ活用事業

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 「ながくてのあるくらしマップ」を社会資源として活用するために講習会
開催 6/26 参加者：13名
ニーズ把握のためアンケートを実施 8/27 発信
自分が転入したと仮定して、“ながくての“あるく”らしマップを使って、情報検索してもらった結果のアンケートをお願いしました。アンケートの依頼文は生成AIのChatGPTを活用し作成した。
対象者：ういういの会のLINE公式アカウントの友達147名 開封数：118名
アンケートフォームクリック数：32件 9/5 督促発信 回答数：17件
- ② 市民活動の情報発信支援セミナー
「LINEで広がるつながりの輪」 2/11 開催 参加者：15名
- ③ 交流の場づくり支援
「世代を超えゆるやかにつながろう！」長久手市民交流会を12/9開催 参加者：42名

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① アンケートの結果を踏まえ、「ながくての“あるく”らしマップ」のスマホ用のWeb検索の項目の並び順を、市民活動に関心ある人が探すであろう“アクティビティ”を最初に表示されるようになった。
- ② 市民活動団体が「情報発信したい」との声はよく聞くので、そのニーズに応えるため情報発信ツールとしてLINE公式アカウントが有効だと思いセミナーを実施した
- ③ 共生推進課の全面協力もいただき、42名の方の参加をいただきワークショップをしました。交流会としての満足度は高かったが、ワークショップ形式になれない人への配慮がもう一段必要だった。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ① ういういの会のLINE公式アカウントが147名の友達を確保していたので、アンケート等に十分活用できると思っていたが、思ったよりクリック数がのびなかった。月200通以上のメッセージ配信は有料になるので、情報発信ツールとしての検討が必要。
- ② 「ぜひ自分達の市民活動団体の情報発信に活用したい」との声は聞かれたので、実践に向けてフォローしますと伝えましたが、実際に担当者確保して、実施しようという動きにはならなかった。
- ③ 地域共生推進課の説明はわかりやすかったので「ながくての“あるく”らしマップ」の概要は参加者には理解いただけた。マップの周知には役立った。しかし、他のシステムの部分活用なので、市民活動の情報を探すツールとしては検討が必要かと思われる

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

ういっいの会の定期的な活動を継続して、その活動の中から、市民活動団体が目指す未来の姿を協働で描いてみたい。そこから生まれる”実践活動”に必要な経営資源や手段を明確にして、中間支援団体としての情報発信につなげたい。
具体的には、AIの活用、各ニーズに合ったワークショップの開催など

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

① 「ながくてのあるくらしまっぷ」を社会資源として活用するために講習会



② 市民活動の情報発信支援セミナー「LINEで広がるつながりの輪」



③ 交流の場づくり支援「世代を超えゆるやかにつながろう！」



ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。